

臨床医学4 第7回

6-48 次の()内にあてはまる語句を記載しなさい。

甲状腺機能低下症は、(1)の分泌低下のため、全身の(2)低下異常をきたした病態で、先天性に発病したものを(3)という。成人では大部分は(4)が原因となる。

6-50 甲状腺機能低下症について、正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 慢性甲状腺炎(橋本病)、亜急性甲状腺炎、無痛性甲状腺炎は二次性である。
- (2) 下垂体性(下垂体腺腫、シーハン症候群)、視床下部性(放射線照射後、頭蓋咽頭腫)は中枢性である。
- (3) 自覚症状は、耐寒性低下、易疲労感、傾眠、記憶力低下などである。
- (4) 他覚症状は、皮膚浸潤、眼瞼・顔面浮腫、腱反射の亢進などである。
- (5) 検査は、原発性では甲状腺機能検査でT4が高値、TSHは低下している。
- (6) 治療は、甲状腺ホルモンの補充療法である。

6-52 次の()内にあてはまる語句を記載しなさい。

甲状腺中毒症[甲状腺機能(1)症]は、甲状腺組織でのホルモン生産・分泌の(1)や組織での(2)により、血中におけるホルモン濃度が(3)となり、全身の代謝が(1)した病態。(4)病が80~90%を占める。ほかに(5)甲状腺炎や無痛性甲状腺炎などがある。

6-54 次の()内にあてはまる語句を記載しなさい。

バセドウ病は、(1)に対する自己抗体が自己の甲状腺を刺激して、(2)と甲状腺ホルモンの(3)をおこす。(4)に多い。

6-56 バセドウ病について、正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) バセドウ病の治療は、抗甲状腺薬療法としてメチマゾール、プロピルチオウラシルを投与する。
- (2) 抗甲状腺薬で寛解しない場合は、甲状腺全摘術を行う。
- (3) 合併症として、甲状腺中毒性周期性四肢麻痺が男性バセドウ病の 10%におこる。
- (4) 抗甲状腺薬の副作用として 0.1~0.2%の発症率で血小板減少症がある。
- (5) 合併症として、患者が手術や外傷などのストレスを契機に機能亢進状態が悪化した甲状腺クリーゼがある。

6-57 次の()内にあてはまる語句を記載しなさい。

橋本病は、バセドウ病と並んで代表的な甲状腺の(1)疾患で、甲状腺機能(2)症の原因として最も多い。(3)性に多い。検査法は(4)の増加、(5)抗体や(6)抗体陽性、(7)で不均一な分布を示し、治療は、(8)による補充療法。

6-60 次の()内にあてはまる語句を記載しなさい。

糖尿病とは、体内でのインスリンの(1)によっておこる。糖尿病は(2)があり、これに環境因子、たとえば(3)、(4)、(5)、(6)などが加わって発病する。インスリンは(7)より分泌される。初期にはまったく症状がない。1型糖尿病は、膵β細胞の破壊により、インスリン分泌が(8)あるいは(9)する。2型糖尿病は、インスリン(10)によってインスリン作用が十分発揮されない。

6-62 次の表は糖尿病の1型と2型の特徴を各項目で比較したものである。適切な語句や数字を記載しなさい。

	1型(1)	2型(2)
家族歴	(3)	(4)
発症年齢分布	(5)	(6)
体重	(7)	(8)
発症	(9)	(10)
ケトーシス	(11)	(12)
インスリン分泌	(13)	(14)
治療	(15)	(16)
その他の特徴	(17)	

6-64 次の()内にあてはまる数字を記載しなさい。

糖尿病の検査は、空腹時に血糖が(1)mg/dl以上か、任意の時間の血糖が(2)mg/dl以上であれば糖尿病と診断する。また、早朝空腹時に(3)gブドウ糖負荷試験を行う。グリコヘモグロビンは、(4)ヶ月の平均血糖と密接に相関する。正常は(5)%以下、(6)%以上なら糖尿病を疑う。

6-66 次の糖尿病の合併症につき()内にあてはまる語句を記載しなさい。

- ・ 糖尿病性網膜症は、網膜の(1)により発症する。進行すると(2)や出血による(3)が生じる。治療は(4)と(5)である。
- ・ 糖尿病性腎症は、(6)の毛細血管の病変が中心。(7)の出現と共に(8)の低下がある。慢性腎不全から(9)に進行した場合は(10)を行う。
- ・ 糖尿病性神経障害は、(11)が高頻度に合併し、(12)、(13)と(14)がおこる。自律神経障害がおこると(15)、(16)、(17)、(18)などの症状がおこる。
- ・ 糖尿病性壊疽は、神経障害による(14)のため外傷に気が付かない、大部分が(19)に局限している。

6-76 尿崩症について、正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 抗利尿ホルモンの産生、分泌が過剰なため、多飲、多尿を主症状とする疾患である。
- (2) 一般検査では、多尿 1 日 3ℓ以上、尿比重 1.005 以下である。
- (3) ピトレスシン負荷試験で尿量の減少と尿濃縮がみられる。
- (4) 治療法はADH誘導体であるDDAVPの内服が有効である。
- (5) 腎性尿崩症は腎集合管細胞の抗利尿ホルモンに対する反応の亢進による遺伝性疾患である。
- (6) 腎性尿崩症は、抗利尿ホルモン分泌に異常はない。

6-77 クッシング症候群について、正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) コルチゾール低下症で内分泌高血圧症の原因疾患として重要である。
- (2) 原因は、下垂体腺腫、異所性ACTH産生腫瘍、副腎腫瘍・過形成である。
- (3) 内分泌検査で、コルチゾール低下、コルチゾール日内変動消失、尿中 17-OHCS の増加である。
- (4) 下垂体に腫瘍があるときの治療は、経蝶形骨洞下垂体腺腫摘出術を行う。
- (5) 副腎腺腫の治療は、腺腫または病側の副腎摘出術を行う。

6-78 副腎性器症候群について、次の()内にあてはまる語句を記載しなさい。

副腎性アンドロゲンの(1)のため、(2)に異常がでる疾患。先天性の(3)による副腎過形成や(4)による。症状は、女性は(5)、女兒は(6)、男性は(7)である。検査では、尿中(8)の増加がみられる。

6-79 下記について、正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) アルドステロン症は、原発性・続発性・特発性アルドステロン症の 3 タイプがある。
- (2) アルドステロン症は、アルドステロンの分泌低下をおこした病態で内分泌性高血圧の原因疾患として重要である。
- (3) アルドステロン症は、若年者の高血圧の約 90%を占める。
- (4) アルドステロン症の症状は高血圧、低K血症、アシドーシスである。
- (5) アルドステロン症の検査では、尿中K排泄増加、血清K高値、アルドステロン増加、血漿レニン活性低下である。
- (6) アルドステロン症の治療は、腺腫には腺腫側の副腎の摘出、アルドステロン拮抗薬の内服である。
- (7) バーター症候群は、高レニン、高アルドステロン、低K血症、高血圧を呈する症候群である。

6-80 アジソン病について、正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) アジソン病は、急性の副腎皮質機能低下症で、原因に結核、自己免疫による副腎の破壊がある。
- (2) 治療法は成長ホルモンの経口投与である。
- (3) 確定診断は、ACTH負荷試験で無反応である。
- (4) 一般検査では、血糖上昇、高Na血症、高K血症である。
- (5) 内分泌検査は、成長ホルモン低下、アルドステロン低下、尿中 17-OHCS・17-K S低下、ACTH増加である。
- (6) アジソン病の症状は、色素沈着、高血糖、高血圧、疲労感、食慾不振、体重減少などを主症状として発病する。

6-82 栄養欠乏症について、正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) ビタミンAは、水溶性ビタミンで、不足により夜盲症、乾燥性眼炎、皮膚の角化、成長不良などがある。
- (2) ビタミンC、脂溶性であり、不足すると壊血病となり、出血傾向も強まる。
- (3) ビタミンDは、脂溶性で、腸からのカルシウム吸収をよくする働きがあり、不足すると、骨の発育が傷害される。
- (4) ウェルニッケ脳症は、ビタミンC欠乏によっておきる脳症、慢性アルコール中毒者に多い。
- (5) ビタミンCは、抗神経炎性ビタミンで、不足すると脚気となる。
- (6) ビタミンB2 は、腸内細菌で合成され、不足すると、舌炎、口唇炎、角膜炎などになる。
- (7) ビタミンB6 は、皮膚炎を予防する。
- (8) ニコチン酸は、不足すると、皮膚角化、色素沈着、慢性下痢などになる。
- (9) 葉酸は、不足すると、鉄欠乏性貧血になる。
- (10) ビタミン B12 は、抗悪性貧血作用を持つ。
- (11) ビタミンD依存性くる病の、I型は活性型ビタミンDへの変換障害である。
- (12) ビタミンEは、脂溶性ビタミンである。脂溶性抗酸化作用や鉄代謝に関係がある。
- (13) ビタミンKは、水溶性ビタミンである。不足するとプロトロビンが減少し出血しやすくなる。

8-86 代謝障害について、正しいものには○、誤っているものには×を記載しなさい。

- (1) 糖原病は、グリコーゲン分解酵素の先天性欠損により肝臓、心臓、腎臓、筋肉などにグリコーゲンの異常蓄積をする病態である。
- (2) フォンギールケ病は、最も発症が多く、グルコース-6-フォスファターゼ欠損でおきる。
- (3) フォンギールケ病は、性染色体性劣性遺伝である。
- (4) ガラクトース血症は、常染色体性優性遺伝であり、ガラクトースからブドウ糖への変換が阻害される。
- (5) テイ・サックス病は、 β -ヘキソサミニダーゼA欠損により知能障害、視力障害を生じる。
- (6) ゴーシェ病は、糖脂質セラチンが網内系に蓄積されるためおこる。
- (7) ニーマン・ピック病は、スフィンゴミエリン水解酵素の欠損症である。

6-93 脱水症について、次の()内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

脱水とは(1)量の減少した状態である。(1)は(2)液と(3)液がある。水分だけの減少があった場合、(2)から(3)に水分が移動する。その状態のことを(4)という。逆に(3)から(2)に水分が移動した場合は(5)という。脱水症状には(6)、(7)などがある。

語群

- a. 口渇 b. 高張性脱水 c. 細胞外 d. 細胞内
e. 体液 f. 低張性脱水 g. 尿量減少

6-97 酸塩基平衡について、次の()内にあてはまる語句や数字を記載しなさい。

- ・ 酸は(1)を出すもので、塩基とは(2)を出すものである。
- ・ 水素イオン濃度はpHが0~7が(3)、7が(4)、7~14が(5)である。
- ・ pHは酸と塩基のバランスだが、酸のうち主要なのが(6)で、塩基は(7)である。
- ・ 炭酸は炭酸ガスの(8)で表され、(9)によって調節される。(7)は(10)や代謝によって変化する。
- ・ 血液のpHは(11)~(12)で弱アルカリ性、pH(11)より低いときを(13)、(12)より高いときを(14)という。